

3月2日(木)、アビオシティホールにて令和4年度加賀看護学校卒業式が行われました。新型コロナウイルス感染予防のため、在校生は代表者のみの参加としました。卒業生答辞の中で、在校生に向けたメッセージがありますので、以下に答辞を全文掲載します。

卒業生答辞

長く厳しい寒さも和らぎ、優しい春の光が差し込む季節となりました。新型コロナウイルスの流行の中にもかかわらず、私達のためにこのような素晴らしい式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中、ご臨席賜りましたご来賓の皆様、諸先生方、保護者の皆様には心よりお礼を申し上げます。

私達が歩んできた三年間は、今思えば一瞬だったように感じます。しかし、その道のりは決して簡単なものではありませんでした。入学して間もなく、新型コロナウイルスによって二か月間の休校と行動制限を余儀なくされました。メディアでは医療従事者の奮闘が伝えられ、これから自分達が目指す医療の厳しい現実と責任について考えさせられました。

また他県から来た私は、交友関係を深める機会が得られず、学校生活の尊さを実感しました。

その後も、新型コロナウイルスが猛威をふるい、先輩方との交流の機会や臨地実習がなくなることもあり、多くの不安を抱えてきました。今日に至るまでにさまざまな試練があり、それを乗り越えてきたことで今の私達があります。

臨地実習では、専門的な知識や技術を必死に身につけて実践し、日々多くのことを学ばせていただきました。時には上手いかず、人を支えていくことの難しさや責任の重さを実感しました。それでも乗り越えられたのは、実習メンバーや先生方の支えがあったからです。また、ご多忙の中何度も助言をいただき、熱心にご指導してくださった指導者の存在は大きな支えとなりました。そして、例え未熟であっても、快く受け入れ、「ありがとう」と笑顔で話してくださる患者様には、何度も励まされました。上手いかずに悔しい思いをしたことや、寝る間も惜しんで実習記録に取り組んだこともありましたが、今思えばどれも良い思い出となっています。そうした経験の中で患者様と真摯に向き合う心を学び、時には自分の心の弱さとも向き合いながら人としても大きく成長できたように感じます。

学校生活では、たわいもない話で笑い合い、たくさんの元気をもらいました。勉強や臨地実習で大変な時も、クラスメイトや実習メンバーに何度も助けられました。悩んでいるときも手を差し伸べてくれる優しい仲間がいたことで、困難なことも乗り越えることができました。同じ目標に向かって技術練習や勉強会などで互いに高め合いながら、みんなで成長できたと実感しています。

そして、いつも温かく見守り、「がんばったね」と声をかけ応援してくれたのは家族でした。嬉しい日も辛い日も、前向きに頑張れたのは家族の支えがあったからです。多くの人に助けられながら共に笑い合い、そして支えあって過ごした日々はかけがえのない財産です。この貴重な経験はこれからも私達の支えになっていくと思います。

在校生の皆さん、これからたくさんの経験をし、多くのことを学んでいくと思いますが、時には悩み苦しむこともあるかもしれません。しかし、そのような時でも周りには心強い味方がいるはずですよ。助け合いながら進んでいける皆さんであれば、きっと乗り越えていけると思います。支え合い、楽しみながら充実した学校生活を送ってください。

私たちはこれから、それぞれの道を歩んでいきます。ここに至るまでに出会った患者様や指導者の方々へ感謝し、日々成長していけるよう努めていきます。今までの感謝の気持ちを胸に刻みながら、今度は私たちが看護の場で多くの人を支えられるよう進んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、ご支援を賜りました皆様方に、心から感謝を申し上げ、加賀看護学校がますます発展されることを願い、答辞とさせていただきます。

令和五年三月二日 卒業生代表

